

備前市事務事業評価表

| 事業の概要 | | コード | 02-02-02-02 |
|--------|----------|------------------|---------------------------|
| 事務事業名 | 各種検診事業 | | 根拠法令・要綱等 健康増進法・がん対策基本法 |
| 事業開始年度 | 昭和46年～ | | |
| 総合計画 | 大項目 基本目標 | 健康でやさしさあふれるまちづくり | 問合せ先 担当課(室) 保健課 |
| | 中項目 基本施策 | 健やかで生き生きとしたまちづくり | 職・氏名 健康係長・白麗由美子 |
| | 小項目 施策 | 成人保健(歯科保健を含む) | 電話 0869-64-1820 |
| | | | |

| 事業の実施 | |
|--------------------------|--|
| 対象(誰・何に対して) | 40歳以上の備前市民(子宮頸部がんは20歳以上女性、子宮頸部・体部がんは40歳以上女性、乳がんは30歳以上女性、マンモグラフィは40歳以上女性、前立腺がんは50歳以上男性、節目検診は30・35歳男女) |
| 目的(何のために) | 生活習慣病予防、がんの早期発見と予防 |
| 行政活動(どのような方法で) | 各種がん検診では備前市各地区を巡回し、備前市愛育委員の協力の下に、検診車などをを用いて検診を行う。また前立腺がんや乳がん個別検診、節目検診では和気医師会の協力の下、各医療機関で実施する。 |
| 事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか) | 生活習慣病の早期発見と予防。がん検診受診率の向上を図ることで、がんの早期発見と早期治療を目指す。 |

| 事業の実績 | | | | | |
|---------|----------------------|--------------------------|------------|------------|------------|
| 活動実績 | 実施項目 | 単位 | 平成17年度実績 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 |
| | 肺がん検診 | 人 | 6,662 | 6,273 | 6,125 |
| | 胃がん検診 | 人 | 3,319 | 2,554 | 2,450 |
| | 大腸がん検診 | 人 | 3,533 | 3,310 | 3,545 |
| | 乳がん検診 | 人 | 2,796 | 2,486 | 2,209 |
| | 子宮頸部がん検診(+セット検診) | 人(類部のみ) | 1,999 | 1,778 | 1,778 |
| | 前立腺がん検診・節目検診 | 人 | 1,424・66 | 1,047・34 | 1,043・57 |
| | 直接事業費 | | 34,639 | 30,192 | 26,571 |
| | 人件費 | 千円 | 12,592 | 10,495 | 8,127 |
| | 事業費計 | | 47,231 | 40,687 | 34,698 |
| 財源 | 国・県・市・道・支・出・金 | | 0 | 0 | 0 |
| | 受・益・者・負・担・債 | 千円 | 4976 | 4829 | 4227 |
| | 一・般・財・源 | | 0 | 0 | 0 |
| | 必・要・人・員 | 人 | 2.07 | 1.90 | 1.53 |
| 結果指標 | 結果指標名 | 単位 | 平成17年度実績 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 |
| | 婦人科がん検診受診者数 | 説明 乳がん視触診+子宮がん(セット検診も含む) | | | |
| | 結果指標量 | 人 | 4,795 | 4,264 | 3,987 |
| | 対前年比 | % | - | 88.9% | 93.5% |
| | 活動コスト | 円 | 47,231,000 | 40,687,000 | 34,698,000 |
| 単当たりコスト | 円 | 9,850 | 9,542 | 8,703 | |
| 結果指標 | がん検診受診者数(40歳以上男女を対象) | 説明 肺がん+胃がん+大腸がん | | | |
| | 結果指標量 | 人 | 13,514 | 12,137 | 12,120 |
| | 対前年比 | % | - | 89.8% | 99.9% |
| | 活動コスト | 円 | 47,231,000 | 40,687,000 | 34,698,000 |
| | 単当たりコスト | 円 | 3,495 | 3,352 | 2,863 |

| 事業の成果 | | | |
|-------|----------------|------------|---------------------|
| 成果指標名 | 婦人科(乳・子宮)検診受診率 | 式又は説明 | 婦人科検診受診者数/婦人科検診対象者数 |
| 成果指標量 | 17年度 27.74 | 18年度 24.67 | 19年度 24.22 |
| 対前年比 | | 88.93% | 98.18% |
| 到達目標値 | 30.00 | 到達目標年度 | 平成21年度 |

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

| 事務事業の評価 | | 妥当性評価<A-E> | B |
|----------|--|------------|---|
| 目的 | <input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令) | 課題認識 | 備前市において死亡原因の第一位は悪性新生物であり、各種検診においても毎年20人以上のがん患者が発見されている。市民への必要性は高い。また30歳・35歳の節目検診では受診者の半数に脂質異常症などの生活習慣病が発見されており、若い年代からの健康への意識づくりが必要である。 |
| | <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している | | |
| 対象 | <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある | 課題認識 | 平成18年度から住所地に問わず市内どの地区でも受診できるようになった。また結核・肺がん、大腸がん検診の休日検診に加え、マンモグラフィ検診の休日検診を実施している。がん検診の費用については委託医療機関を入札によって選定しており、委託単価の引き下げによって受診者自身の自己負担の軽減にも努めている。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である | | |
| 行政活動 | <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である | 有効性評価<A-E> | B |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である | | |
| | <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい | | |
| 市の関与 | <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい | 課題認識 | 平成18年度から住所地に問わず市内どの地区でも受診できるようになった。また結核・肺がん、大腸がん検診の休日検診に加え、マンモグラフィ検診の休日検診を実施している。がん検診の費用については委託医療機関を入札によって選定しており、委託単価の引き下げによって受診者自身の自己負担の軽減にも努めている。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難 | | |
| | <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない | | |
| コスト | <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求め職場内で改善に努めている | 有効性評価<A-E> | B |
| | <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている | | |
| 効率性の評価 | <input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい | 課題認識 | 子育てがん、大腸がん検診などの受診率は1~3%増加したが、乳がん検診は2%減少しており、全体として若い年代での受診者が減少している。検診によって発見されたがん患者は22名、疑いを含めると31名にのぼり、65歳以下での発見者も多いため、更に受診率の向上に努める必要がある。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 職員の意見・要望が反映されやすい | | |
| | <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している | | |
| 職 場 | <input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである | 課題認識 | 子育てがん、大腸がん検診などの受診率は1~3%増加したが、乳がん検診は2%減少しており、全体として若い年代での受診者が減少している。検診によって発見されたがん患者は22名、疑いを含めると31名にのぼり、65歳以下での発見者も多いため、更に受診率の向上に努める必要がある。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業に縮小している | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している | | |
| 目的達成度 | <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している | 課題認識 | 子育てがん、大腸がん検診などの受診率は1~3%増加したが、乳がん検診は2%減少しており、全体として若い年代での受診者が減少している。検診によって発見されたがん患者は22名、疑いを含めると31名にのぼり、65歳以下での発見者も多いため、更に受診率の向上に努める必要がある。 |
| | <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業の縮小している | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業にNPO、ボランティア団体等が参画している | | |
| 成果向上の可能性 | <input type="checkbox"/> 事業の縮小している | 課題認識 | 子育てがん、大腸がん検診などの受診率は1~3%増加したが、乳がん検診は2%減少しており、全体として若い年代での受診者が減少している。検診によって発見されたがん患者は22名、疑いを含めると31名にのぼり、65歳以下での発見者も多いため、更に受診率の向上に努める必要がある。 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小している | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業の縮小している | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小している | | |
| 市民参画度 | <input type="checkbox"/> 事業の縮小している | 課題認識 | 子育てがん、大腸がん検診などの受診率は1~3%増加したが、乳がん検診は2%減少しており、全体として若い年代での受診者が減少している。検診によって発見されたがん患者は22名、疑いを含めると31名にのぼり、65歳以下での発見者も多いため、更に受診率の向上に努める必要がある。 |
| | <input type="checkbox"/> 事業の縮小している | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業の縮小している | | |
| | <input type="checkbox"/> 事業の縮小している | | |

| 平成20年度の状況 | | 説明 | 健康増進法に基づき、平成20年度も事業を継続する。またこれまで以上の利便性を考慮して、平成20年度には胃がん検診で休日検診実施を予定している。 |
|---|---------------------------------------|-------|---|
| <input type="checkbox"/> 重点化している | <input type="checkbox"/> 休止している | | |
| <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している | <input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 | | |
| <input type="checkbox"/> 事業を縮小している | | | |
| 目標値 | 結果指標量 4,444 | 結果指標量 | 12,773 |
| 成果指標量 | 27.00% | | |

| 総合評価 | | 評価区分<A-E> | B |
|---|--|-----------|---|
| 健康増進法に基づき各種がん検診を実施。マンモグラフィ検診では受診者が100名以上増加し、子宮がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検診でも受診率は微増しているが、全体として若年層の受診率は低く、平均して64歳以下の各種がん検診受診率は31.2%、65歳以上の各種がん検診受診率は46.8%と大差がある。広くがんの早期発見・早期予防を呼びかける為にも、若年層への積極的なPRが必要である。 | | | |
| | | | |

| 平成21年度以降の方向性 | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) | <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する |
| <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する | <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する |
| <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する |
| <input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了 | |

| 平成21年度以降の改善事項 | | | |
|---------------|---|--------|--|
| 評価の視点 | 改善内容 | 改善時期 | 改善により期待される効果 |
| 有効性 | 64歳以下の各種がん検診受診率の向上を目指し、愛育委員、広報、HPや幼児クラブなどを通じて、広く検診のPRを行う。 | 平成21年度 | 若年層の受診率の向上を図ることで、働き盛りの年代の悪性新生物の早期発見・早期治療につながり、がん死亡の減少をはかる。 |